

【タイトル】言葉の傷は、言葉の“絆”で治る

【概要】

本企画はノンフィクションです。亡き父への心から湧き出る「ありがとう」の言霊が、私を病から解放した奇跡のお話をします。自分の「かげ」が”おかげさま”になる。『転校先の中学で受けた「言葉」の暴力に言い返せず自分の身体が悲鳴をあげたあの日の私』に手紙を書くとしたら？デリケートな私とあなたに、再生のすべをそっとお伝えしたいと思います。逆転の発想、できないからこそできた工夫で、ちいさな成功体験を積んでいく大切さ。人との出逢いと温かいまなざし、見守りで立ち直れたこと。「言葉の傷は、言葉の“きずな”で治す！」一見経済的に豊かな日本で子ども達の自殺が多いのは何故なのか？SNSで皆が「いいね」を欲しがるとは、見えない「敗戦」の世代的連鎖があるのではないのか？日本人とあなたの魅力を再発見。明るく自分が好きになるイメージを身につければ、病と夢の実現とは一直線。どんなことも、ドンマイ！この本が私からの応援歌です。

【想定する読者ターゲット】

- ① 令和が住みづらく、昭和が恋しい人
- ② 失敗が許されない人生に疲れた人
- ③ モラハラ、パワハラ、メンタルヘルスに悩む人

【構成案】

第1章 戦争がもたらした我が家の傷

- ・我が家の戦争、叔母が20歳で亡くなった悲しみ。
- ・母の死産、兄を背負った女のわたし。
- ・人の死が残す悲しみ一命の大切さ一。

第2章 目を閉じると思い出す、心のユートピアの小学校時代

- ・恩師との44年ぶりの再会。
- ・体験学習が想像力を育くんだ。
- ・ありのままに愛され、友達どうしがいきいきしていた思い出。

第3章 転校先、見守るまなざしの無いディストピアな中学時代

- ・執拗に担任教諭から怒られた私たち。“個性的”は、腐ったミカン？
- ・責任感の裏返し、誰にも助けを求められなかった私。

第4章 自分の”かげ”が「おかげさま」になる

- ・「電車が怖い」から開花した長距離運転の才能。オリジナル音楽療法で英語が好きに。
- ・「自分が解らない」から趣味となった読書。身についた質問力。
- ・全回復の魔法、亡き父への心からの「ありがとう」。

第5章 見守ることの大切さ、皆さんのおかげで今があることへの感謝。

- ・昭和と令和の空気感の違い、支えあうことで実現する未来。
- ・未だ世間に残る戦争の呪縛、次世代に残す本来の日本の良さを伝えたい。

## 【サンプル原稿】

### 第2章 自然が教科書、動物が友達楽しい小学校

今では珍しい体験型の小学校教育が、私に生きる力と自分を信じる力を養ってくれたことをお話ししたいと思います。

#### ・恩師と44年ぶりの再会

令和3年の年明け、一枚の年賀状が届きました。その表には、車いすに乗った奥さんの背後でほほ笑む、小学校時代の恩師、A先生の姿がありました。A先生は小学校の校長先生を兼任し、退職後は幼稚園教育に尽力した人格者で、本当に子どもが好きな方でした。先生は当時としては斬新な総合教育に取り組んだ方で、NHKの教育テレビからも取材を受けたことがある方です。私は先生とは毎年のように年賀状のやり取りをし、先生が自作した弥勒菩薩の手作り版画つきの年賀状を貰うことを楽しみにしていたのですが、先生が奥さんの介護をしていたことは、その年に初めて知ったのです。当時私も実母の介護をしていましたから、思わず嬉しくなり、隣の先生のもとへ足を運ぶことを決めました。44年ぶりに出会ったA先生へ、小学校時代、私だけカブトムシをなかなか持てなかった思い出をお話しすると、「あの時は、カブトムシを持てるようになるまでに、1時間かかったね。よかったね。」と、言ってくださいました。私は、小学校時代の恩師が、今でも私の事を覚えていてくださったことに驚き、当時の私をこんな風に見守っていてくださったことに、深く感動を覚えました。この日から、私はこれまでの人生の在り方を顧みることが出来るようになったのです。

#### ・体験学習が想像力を育くんだ

なぜ、なににもできなかった自分が、数々の困難を乗り越えて色んなことができるように成長できたのか？その秘密は、小学校時代の体験学習にあります。

自然が教科書、動物が友達。「カブトムシ」一匹を題材に、詩が生まれ、演奏をつけ、歌となる。楽器で奏でていつでも自作の歌が飛び交う環境。カブトムシの絵を描き、カブトムシで競争をさせるなど、体験学習を通し生徒達を見守ってくれた優しいまなざし。それらすべてが私の見えない糧となり、今の自分を救ってくれたのです。

カタクリの群生地保護も、小学校時代の忘れられない思い出の一つです。カタクリはSpring ephemeral という名を持ち、春の妖精とも呼ばれる美しい花です。当時近所にそのカタクリの群生地があることをA先生が発見し、私たちのクラスを連れて行ってくださいました。カタクリの花があたり一面に咲き誇っているのを見て、私は、「まるでカタクリのじゅうたんのようでした」と作文を書きました。A先生はそれをみんなの前で何度も朗読して、よく私を褒めてくれたのです。当時の同級生は今では社会の第一線で働いているような優秀な人が多かったので、A先生からそんなみんなの前で認めてもらったことは、私の自信の形成に繋がり、以降私が文筆を好きになるきっかけともなりました。私たちのクラスは群生地の保護活動を行い、今では観光名所にもなりました。この小学校の経験は、私の心のなかにユートピアとして刻まれ、眼を閉じればいつでもやすらぎをあたえてくれるのです。出逢いに感謝。

[以上抜粋となります。よろしく願いいたします。]